

ひと

4月に東京大学の第31代総長に就任する

ふじい てるお
藤井 輝夫 さん(56)



コロナ禍は大学の光景を変えた。東大も例外ではない。キャンパスへの入構は制限され、講義はオンラインに。シンボルの安田講堂も閑散としている。異例の状況で4月、第31代総長に就く。遠隔授業は定着したが、コミュニケーションでは対面に及ばない。「リアルな学生生活の大切さは認識している」。学内の密集回

避のため、デジタルで人の動きを把握するしくみの構築をめざす。東京出身で、中高は私立の進学校・麻布に進んだ。ロックとジャズを融合させたフュージョンにひかれ、バンド活動にのめりこむ。東大工学部に進学したが、会社勤めをする気はなかった。「漠然と音楽関係の職業もいいな、と」

ちょうど黎明期だった海中ロボット開発に出会い、学者の道へ。6年前に生産技術研究所長になって以来、経営にまわり、3年前から副学長。研究者には我が道をいくタイプも多いが、周囲は「聞く耳を持つ調整型」とみる。

学内には、昨年の新総長選考をめぐるわだかまりが残る。選考を仕切った元総長が有力候補の排除を画策したとの疑いが浮上し、教員が反発。第三者委員会が2カ月かけて選考過程を検証した。

コロナへの対応に加え、教員の融和も喫緊の課題だ。「大学はトップダウンで号令をかければ動く組織ではない。多くの皆さんと対話し、考えを共有していきたい」

文・土屋亮 写真・加藤諒